

MAXQDAを利用して
自信を持って質的データを
分析することができました

大妻女子大学 文学部 英文学科

千田 誠二 先生 ゼミ生

石川 さくら さん



大妻女子大学 文学部 英文学科 千田 誠二先生は英語教育学がご専門で、異文化接触場面における「目標を伴うなど特定の状況に置かれた」人間の内的側面と外的側面の関わり合いについて研究されてきました。現在は、教育者の立場からの「語り(ナラティブ)」を中心に研究をされています。また、質的研究を用いて卒業研究の課題に取り組むことを推奨されており、研究室のゼミでもMAXQDAをご活用いただいている。

今回は、千田先生のゼミに所属されている石川さくらさんに、MAXQDAを使用して卒業論文を書いた時のお話を伺いました。

――研究のテーマについて教えてください。

私は、「過去のどのような体験が大学生の英語学習意欲を高めているのか」ということを研究しました。大学3年次に、英語の授業のTA (Teaching Assistant)を始めたことが研究のきっかけとなりました。この授業はネイティブの先生が担当し、ALL Englishで行われます。スピーキングに特化した内容となっており、生徒は英語でプレゼンテーションをしたり、スピーチを行ったりすることで、成績に反映されるポイントを獲得します。そのポイント制を通して気が付いたことがあります。授業では英語の使用量が成績に直結するにもかかわらず、毎週発言する子はずっと発言するのに対し、全くしない子はずっとしないんです。生徒の発言量や学習意欲を裏付ける、過去の体験は何なんだろうかと疑問に思い、卒論のテーマにしました。

研究を進めれば進めるほど、どんどん資料が増えていく……

—どのように研究を進めていきましたか？

インタビュー調査をメインに行いました。昨年予備調査として1人の学生にインタビューを行い、今年は3人の学生に2回ずつインタビューをしました。他にも、その授業に参加している生徒にアンケート調査を行うなどの予備調査をして裏付けをとりました。あとは、授業の観察メモも取って、1年間を通して生徒の様子がわかるようにしていました。

<h2 style="text-align: center;">予備調査 受講者へのアンケート調査</h2> <p style="text-align: center;">英語学習についてのアンケート</p>	
<p>本調査は、英国についての興味と目的でして行われる調査です。得られた調査結果は、本研究の論文や以外には使用しません。尋ねた問題結果は厳重に保管し、個人が特定されないように配慮します。氏名を記入する必要はありません。正確な回答をうながす、思ったままをご回答いただける様です。</p> <p>本アンケートの回答にかかる時間は約5の程度です。</p> <p>なるべく調査への回答自由です。質問を希望されない方は、記入せずにそのままアンケートを廻してください。部分的に回答をしない項目がある方は、その質問項目には0を記入してください。</p>	
<p>2019年12月2日</p>	
<p>大妻女子大学文学部英文学科 [REDACTED] 石川さくら 問い合わせ先： 指導教員：千田晶二</p>	
<p>回答方法 自分が気持ちに近いもの丸をつけてください。 5 「とても思う」 4 「うう思う」 3 「どちらもしない」 2 「あまり思うわない」 1 「思わない」</p>	
<p>1. 英語が好きだ。 5・4・3・2・1 英語を身に付けることは簡単だ。 5・4・3・2・1 3. 将来は英語で話すことができるようにならと思う。 5・4・3・2・1 4. 英語を覚えることをよく自分で思ふと思ふ。 5・4・3・2・1 5. 今、英語の勉強をする気は高い。 5・4・3・2・1 6. 英語を勉強している人は英語を覚えるようになると思う。 5・4・3・2・1 7. 特別な才能をもつた人が英語を覚えるようになる。 5・4・3・2・1 8. 英語は英語の国で開催がある。 5・4・3・2・1 9. 英語を使って旅行に行きたい。 5・4・3・2・1 10. 英語を使って海外で働きできるようになりたい。 5・4・3・2・1</p>	
<p>以下の質問には、記述式で答えてください。</p>	
<p>11. 英語に興味を持ったのはいつですか？ () ()</p>	
<p>12. どんなときにも英語学習へのやる気が高まりますか？ () ()</p>	
<p>13. TOEIC や 英検など英語の資格のスコアがあれば教えてください。 () ()</p>	
<p>14. 海外で行ったことがある国と、目的、期間を教えてください。</p>	
<p>例：ロンドン、留学、3週間 / 台湾、旅行、4日間 等 () ()</p>	
<p>15. 英語学習での不安があればご記入ください。</p>	
<p>例：文法の可算/不可算、話そうとしても単語が出てこない 等 () ()</p>	
<p>質問は以上で終わりです。</p>	
<p style="text-align: right;">卒業研究のデータ(アンケート)</p>	

卒業研究のデータ(アンケートと観察メモ)

- 受講者へのインタビュー調査
 - 授業の内容やクラスの様子についての授業観察メモ
(9か月分)

インタビューの文字起こしをして思ったのが、質的調査は本当にデータ量が多いということでした。私はゼミ生に向けてMAXQDAのレクチャー会をしたのですが、本当に、この時の資料と同じ状況で(笑)。

インターだけではなく、前述の授業観察メモやアンケート結果も手元にありました。WordやExcelなどを使って1個1個の資料を分析していくのはさすがに厳しいので、一気にまとめる方法が欲しいなと思いました。そこで千田先生に相談したところ、紹介していただいたのがMAXQDAでした。

3. 分析 ▶ これから分析を進めたいけれど…



石川さんがゼミ生に向けてMAXQDAの レクチャーを行った際に作成された資料の一部



まずは膨大な資料の整理から

MAXQDAを使うと、卒論に使うデータすべてを1ファイルにまとめて整理することができます。資料をたくさんインポートしても、クリックするだけで使いたいデータがすぐに呼び出せるのが本当に便利だと感じました。他学科の友人にこの話をすると「私も使ってみたい!」とすごく興味を持ってもらいました。

The screenshot shows the MAXQDA software interface. On the left, the '文書システム' (Document System) panel displays a tree view of project files, including '卒論研究計画', '2019発表スクリプト', 'アンケート実験についてのアンケート', 'アンケート実験(1年)', 'アンケート実験(2年)', '20190601インタビュー', 'インタビューコード分析シート', 'インタビューコード分析シート', '20200313インタビュー', and '20200207インタビュー'. On the right, the '文書ブラウザ' (Document Browser) window shows a transcript of an interview. The transcript includes numbered lines of dialogue between 'A' and 'S' (Speaker), with various codes and annotations applied to specific segments.

石川さんのMAXQDAの画面
データとコードが綺麗に整理されています

M AXQDAを使って質的研究に挑戦!

— 整理したデータを使って、どのように分析を進めていきましたか？

最初は、インタビューデータのどこに注目して分析していくべき良いのかわかりませんでした。インタビューを1時間ほどやっていると、話が結構いろんなところに飛んで行ってしまうんですね。そこで話の流れを理解するために、「ネイティブの先生の第一印象」や「履修について」などのある程度大きな枠組みのコードを作成して付けていきました。その後、各コードの内容を細かく見ていく、という流れで分析を行いました。

— 大変きれいにまとめられていますね。特にコードのカテゴリ化が秀逸です。

ありがとうございます！

M AXMapsで語りの内容のつながりを可視化し、注目るべき部分を見つけ出す

自分で実際にMAXQDAを利用してわかったのが、今までではデータを可視化する、ということが全然できていなかったな、ということでした。例えばインタビューで話を聴いても、「この人はこういうことを言ってるな」という程度でしか捉えることができていなかったんです。MAXQDAを使ってコードを付けることで、それぞれの語りの内容がどのように影響しているかといったつながりが、パッと見たときにわかるようになりました。

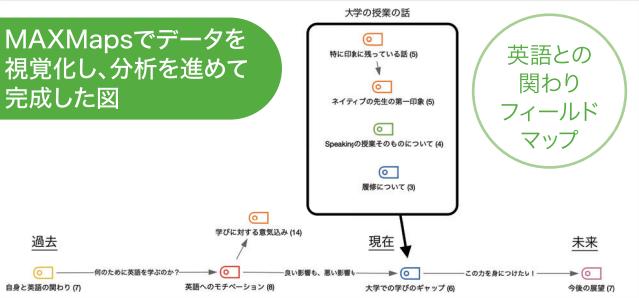
このデータの可視化に関しては、MAXMapsの機能を多用しました。画像のようにコードが可視化できるので、どこに注目するべきか一目でわかるようになりました。論文の考察を書く最後の段階まで、MAXQDAは本当に便利でした。



機能紹介 MAXMaps

インポートしたデータや作成したコードのアイコンをマウス操作で並び替えることによって、視覚的にコードをグループ分けしたり、階層を作成したり、新しいカテゴリにまとめ直したりすることができる機能です。文書とコードの関係性やコード同士の関係性を可視化することで、データを俯瞰して見ることができます。

MAXMapsでデータを視覚化し、分析を進めて完成した図



— 本日はお忙しい中、お話を聞かせていただきありがとうございました。石川さんはご卒業後、語学学校の先生になるそうです。社会人になっても頑張ってください！

指導教官 千田 誠二先生からのコメント

石川さんはゼミの中でも特に優秀で、質的研究に必要な視点を身に着けた上で卒論を取り組むことができていました。私のゼミでは語り(ナラティブ)当事者研究を研究題材に選ぶ学生が多いのですが、石川さんの行った「大枠を捉えてコードを付けていく」という工程が学部生には意外と難しく、苦手とする学生が多いんですよね。

MAXQDAは研究者用のソフトウェアではありますが、学生の教育に使えるガイドラインも整っていくことを期待しています。質的分析には「決まった正解」というものはありません。学生のみなさんにはぜひ、恐れずに挑戦していただきたいです。



MAXQDAは「視点の切り替え」をサポートします！

質的研究では、データを読み込んでコードを作成し、カテゴリ化を行ってコード同士の関係性を把握し、コードを再構築する、という手順を繰り返します。この際に重要なのが、データの細部を読む視点と、データ全体を俯瞰する視点の切り替えです。石川さんの場合は、最初に「大きな枠組み」という視点を持ったことで、視点の切り替えをスムーズに繰り返し、分析を深めることができます。MAXQDAには、作成したコードの関係性を図表にする機能やインタビュー回答者の属性によってコードを比較する機能など、データを俯瞰して見る機能が搭載されています。そして、まとめた図表からクリックで元データに戻り、細部を見直すことができます。

